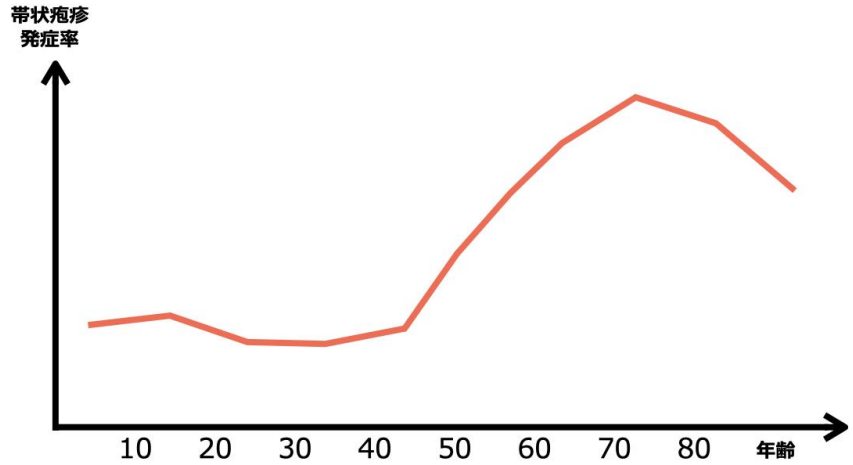
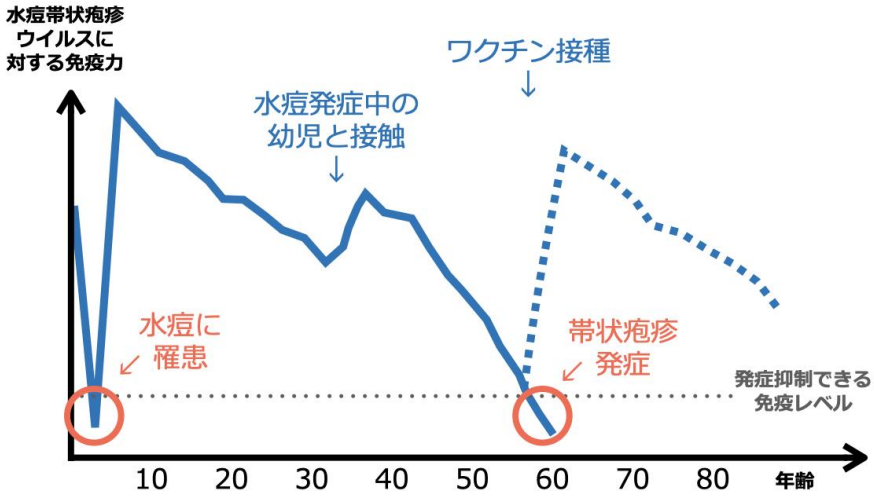
帯状疱疹予防ワクチンについて

帯状疱疹の発症しやすさ、予防の意義



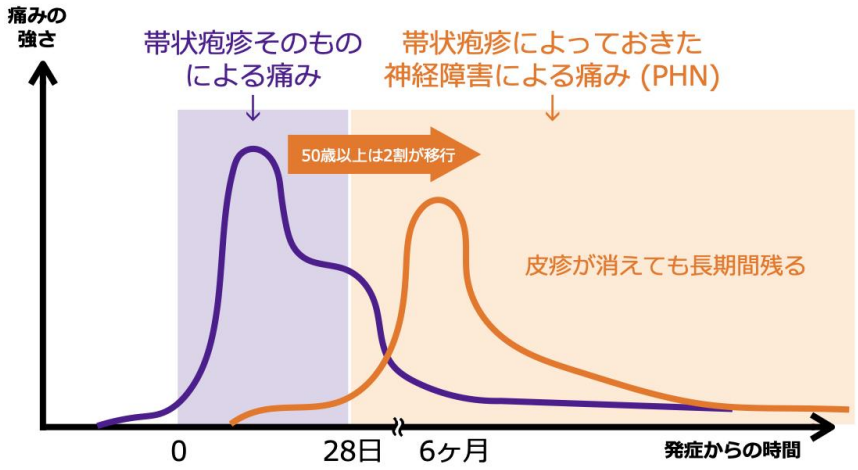
帯状疱疹は 50 代から発症しやすくなり、80 歳までに日本人の 3 人に 1 人が発症するといわれています。では、なぜ 50 代から発症しやすくなるのでしょうか？



帯状疱疹の原因は、水痘(みずぼうそう)と同じウイルスです。水痘になるとこのウイルスに対する免疫が活性化して病気としては治まりますが、ウイルスは体から完全に排除はされません。どこか一つの神経節に静かに潜み、免疫が低下してくると増殖し、潜んでいた神経領域のみに水疱が出現する「帯状疱疹」を発

症します。時間とともに免疫は徐々に低下しますが、水痘を発症しているこども等と接触する機会があると、気がつかないうちに免疫が活性化されます、しかし高齢になると徐々に免疫力自体が低下、さらにはがんや糖尿病など免疫の低下する病気にかかることも増えるため、帯状疱疹を発症しやすくなります。これに加え、2014 年から乳幼児の水痘の予防接種が定期接種化されたことで、水痘を発症するこどもの数が激減しました。このため、日常生活の中でのこどもとの接触により水痘のウイルスに対する免疫が活性化する機会自体も減ったため、今高齢者が帯状疱疹を発症するリスクは、さらに上昇しています。

帯状疱疹は、皮膚の水疱が消えてからも長期間にわたり激しい痛みが持続して、日常生活に大きな影響を与えることもあります。



特に高齢だったり、皮膚の症状が激しい場合にこのリスクが高くなりますが、50 歳以上で帯状疱疹を発症した人の約２割の方がこのような長く続く激しい痛みを経験しています。ワクチンでも副反応で５日程度痛みが続くことがありますが、ほとんどの場合１週間以内には治まります。高齢になってから半年以上にわたる激しい痛みの持続は活動量の低下にもつながり、様々な影響が出る恐れがありますので、是非ワクチンでの予防をお勧めします。

２種類の帯状疱疹予防のためのワクチンについて

帯状疱疹を予防することのできるワクチンは、現在２種類あります。
当院では主にシングリックスを取り扱っています。

定期接種対象者は

	水痘ワクチン	シングリックス
接種 対象者	50 歳以上の方、ただし免疫抑制剤を使用しているなど、免疫が低下している人は接種不可	50 歳以上の方
費用負担	定期接種※または任意接種	
接種経路	皮下	筋肉内
接種回数	1 回	2 回　（2 ヶ月間を空ける　遅くとも 6 ヶ月後までに 2 回目）
有効成分	弱毒生水痘帯状疱疹ウイルス	水痘帯状疱疹ウイルス糖タンパク E 抗原
予防効果	50~60%	90%以上
免疫持続効果	5 年程度	9 年程度　（再接種の推奨はなし）
菌定着 防止効果	なし	あり
主な副反応	注射部位の痛み・腫れ・発赤	注射部位の痛み・腫れ・発赤
価格比較	比較的安価	比較的高価
販売開始	1987 年(小児の水痘予防)　帯状疱疹予防としては 2016 年～	2020 年 1 月

※帯状疱疹ワクチンが定期接種対象なのは

年度内に 65 歳になる方

※令和 7 年度から 5 年間は、年度内に 70 歳、75 歳、80 歳、85 歳、90 歳、95 歳、100 歳になる方も対象になります。

60 歳以上 65 歳未満で HIV による免疫機能障害により

日常生活がほとんど不可能な方　　です。